

(地方創生)政策評価調書(28年度実績)

政策名	基盤を整え、発展を支える	所管部局名	企画振興部	政策コード	IV-4
		関係部局名	企画振興部、生活環境部、土木建築部	長期総合計画頁	175

【Ⅰ. 政策の概要】

広域交通網の整備など地域間競争の基盤整備を進めるとともに、防災などの地域の安全性・強靱性を高める。

【Ⅱ. 構成する政策・施策(主な取り組み)の評価結果】

取組No.	政策名	施策名	指標評価	総合評価
①	安心・安全な県土づくりと危機管理体制の充実	災害に強い人づくり、地域づくりの推進	著しく不十分	C
		大規模災害等への即応力の強化	達成	A
		県民の命と暮らしを守る社会資本整備と老朽化対策の推進	達成	A
②	「まち・ひと・しごと」を支える交通ネットワークの充実	人の流れ、物の流れの拠点づくり(九州の東の玄関口としての拠点化)	達成	A
		広域交通ネットワークの整備推進	達成	A
		まちの魅力を高める交通ネットワークの構築	達成	A

【Ⅲ. 目標指標】

指標	関連する取組No.	基準値		28年度		31年度	36年度	目標達成度(%)					
		年度	基準値	目標値	実績値	達成度	目標値	目標値	25	50	75	100	125
i 大分市中心部まで概ね60分で到達できる地域の割合(%) (再掲)	①②	H26	73	73	73	100.0%	76	78	[Progress Bar]				

【Ⅳ. 指標による評価】

評価	理由等	平均評価
i 達成	H28年度は開通による割合の向上はないが、(都)庄の原佐野線や中九州横断道路など、大分市中心部までの所要時間の改善に資する事業を引き続き推進している。	達成

【V. 施策に対する意見・提言】

○自民党大分県支部連合会「平成29年度当初予算に対する最重点要望事項について」(H29.1)

・台湾とのチャーター定期便の定期便化など、外国人観光客の誘致促進と新たな観光ルートの構築、イベント観光の充実を促進すること。

○経済5団体「東九州新幹線の早期実現について」の要望(H28.8)

・東九州と西九州を一体的に発展し「九州は一つ」の理念を実現するため、東九州新幹線の早期実現について特段の配慮をお願いしたい。

○大分経済界等による中九州横断道路・中津日田道路の要望(H28.11)

・本県の横軸を担う地域高規格道路(中九州横断道路・中津日田道路)は、九州の一体的な発展を図るために必要不可欠な道路であることから、物流を円滑にし、産業・経済活動を活性化させるために、早期整備について配慮をお願いしたい。

○県土強靱化対策特別委員会(第4回定例会:H28.12)

・自然災害に対しては、常日頃からの避難訓練が大切であり、避難訓練を通じて県民の防災意識の向上も図られる。避難訓練に関しては、訓練の目標を明確に定め、実効性のあるものを行う必要があり、それぞれ地域の特性に合わせ地域住民と地元企業との連携等地域ぐるみの訓練を実施するとともに、県民の日常生活の中での災害を想定した訓練を行う必要がある。

【VI. 推進上の課題と今後の展開について】

東九州自動車道が北九州市から宮崎市までつながり、九州全体が高速道路ネットワークで結ばれ、人の流れ、物の流れが活発化している。本州・四国との間を結ぶ多くのフェリー航路を有し、海路と陸路が結節する位置にある本県では、H29.3月に「九州の東の玄関口としての拠点化戦略」を策定し、多くの人・物が本県を介して九州内外を行き来する状況をつくることで、経済活性化・雇用創出を促進していくこととしている。

また、九州の東の玄関口としての機能を強化するため、中九州横断道路や中津日田道路などの地域高規格道路の整備等を推進するとともに、南海トラフ巨大地震等の災害に備え、広域的な交通のリダンダンシーの確保に努めていく。さらに、東九州新幹線についても、H28.10月に「大分県東九州新幹線整備推進期成会」を設立し、国への要望や機運醸成のためのシンポジウムを開催するなどの活動を行っており、今後も整備計画路線への格上げに向けた取り組みを強化していく。

大規模災害時における救助・救援体制を強化するため、東日本大震災や熊本地震などの経験も踏まえ、広域的支援の受入体制の整備、民間の支援活動との十分な連携・協働の確保、孤立集落に対する救助・救援体制の構築などを進めるとともに、原子力災害を含む複合災害に対する防災対策も推進していく。また、県民の命と暮らしを守る社会インフラの老朽化対策も必要であることから長寿命化計画に基づく戦略的な補修等についても取り組んでいく。